

平成31年度 神崎市立神崎中学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
「純美にしてファイトに富む学校」 ～生きる力を身につけ、自ら未来を拓く生徒の育成～	①学習スキルの強化による学力向上 ②心の教育の実践 ③生徒会活動の活性化と基本的な生活習慣の確立

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①学習スキルの強化による学力向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・全教科での授業研究会の実施 ・学習習慣と家庭学習の定着	・個に応じた指導やわかる授業、生徒の学習への主体的な取り組みに向けた指導方法の工夫・改善を行う。 ・生徒が計画的、自主的に家庭学習に取り組む手立てを行う。	・1学期中にQ-Uや学力調査の結果から生徒の実態を丁寧に把握し、分析結果を指導に生かす。 ・各部会、各教科等で研究テーマに基づいた授業研究会を年1回以上実施する。 ・全職員で神崎プラン(学習規律)の徹底を図る。 ・「親学・子学」等を活用して学習方法の指導を行い、家庭学習の定着を図るとともに、学校だけでなく家庭学習の意義や内容を家庭に啓発する。	A	・4月のNRT検査、全国学習力状況調査や県学習力状況調査の結果を踏まえ授業改善及び家庭学習の充実を図った。昨年度との比較や12月調査の結果を比較すると対照比で向上している教科が多く見られた。 ・Q-Uでは、学級集団で生活する上での課題を客観的に把握することにより支援を効果的に行うことができた。さらに、学校生活が安定することにより学力の向上にも寄与した。 ・特別の教科道徳では、各学年を中心に研究授業を行い、授業力の向上を行った。	・全国学習力状況調査や県学習力状況調査を対照比で分析すると、下回っている教科もあるため、引き続き授業改善と家庭学習の充実を図っていく。 ・道徳の授業では、話し合い活動を取り入れた授業展開を行い、そのための共通した授業形態を全校で実施する。また、道徳以外の教科での話し合い活動でも実施することにより、対話的な学習を深め、学力の向上につなげる。 ・家庭学習の充実を図るために、生徒への指導・支援のみではなく、家庭への働きかけを行う。
	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	・全教科でのICT活用教育の推進	・全教科でICTを利用した授業実践を行い、効果的な活用方法を検討するとともに生徒の考え、表現する力を育成する。 ・skyメニューの導入	・各教科の年間計画の中にICTの活用について明記する。 ・職員間でICTについての情報交換を行い、職員の意識を高める。 ・校内研修等でskyメニューを活用した授業実践を行う。	B	・不十分であったが、実践では、機器を活用する場面が多く見られた。 ・ICT機器の利用に関しては、ほとんどの職員が日常的に利用することができていた。 ・昨年度に引き続き、skyメニューの集約機能を使った導入を積極的に利用する場面が多く見られた。	・ICT機器の活用については、どの教科でも積極的に活用することができていた。その大きな要因としては、神崎市は、情報活用機器の導入状況が進んでおり、職員も利用しやすい環境にあることが上げられる。今後、対話活動の一つのコンテンツとしての活用法を探ることを取り組みたい。

②心の教育の実践

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・道徳教育推進教員を中心とした道徳の授業の活性化 ・無言清掃での「五つの心」の育成・深化	・全担任による道徳の授業を公開する。 ・体験活動や行事の事前や事後に、道徳の授業を取り入れ、道徳性を養う。 ・無言清掃から無音清掃へ発展し、徹底していく。	・ふれあい道徳教育を地域に公開し、道徳教育の充実を図る。(5月19日実施予定) ・「考え議論する授業」について研修を行う。 ・無言清掃を通して、「五つの心」を磨く。掃除の前後に、教師や生徒が「五つの心」に関わる話を毎日行う。	A	・ふれあい道徳教育を全担任で授業公開ができた。 ・道徳科の授業では「対話」を重視し、研修会や相互参観を通じて、指導方法の改善に取り組んだ。全学年ローテーションによる授業やTTでも授業に取り組んだ。 ・行事の前後に、関連する項目の授業を行い、補充、深化に努めた。 ・掃除前の話のなかで「五つの心」に関連させながら、無音清掃に発展するための意識づけを行った。	・「対話」をより充実させる取組を全校で実施し、校内研修や授業参観を通じて指導方法の改善に取り組む。 ・無音清掃に発展させる過程を通して「五つの心」を育む。
	●いじめ問題への対応	・いじめの未然防止、早期発見、早期対応	・QUを活用したいじめの未然防止のための居場所づくり・終りを行う。 ・いじめを見逃さない体制づくりを行い、組織的な対応をする。 ・保護者や関係機関との連携を密にする。 ・生活アンケートの実施と教育相談の充実	・SC・生活支援員等との組織的な連携を図り、早期対応に努める。 ・生徒指導体制・教育相談体制を強化し、全職員による情報交換を定期的に行う。(週に1回) ・生活実態アンケート(いじめ防止)を月1回実施し、状況把握に努める。	B	・不登校、別室登校生徒に関しては、SC生活支援員、SSWとの連携を強化し、具体的な対応策を話し合う場を設定した。 ・定例の教育相談で、気になる生徒については学年職員で共通理解のもと、早めの対応を心がけいじめや不登校に努めた。 ・生徒の人間関係の把握がしやすくなり、いじめの未然防止にいらは役に立った。 ・全ての生徒がアンケートに本音で答えているかは疑問が残る。	・定例の教育相談だけでなく、平日頃から気軽に相談できるような教師と生徒との人間関係の構築を図る。 ・遅刻や欠席の目立つ生徒などが出てきたら、早めに教育相談部会につなぎ、学年の枠を越えて対応できるような体制をとる。 ・教師と子どもが信頼関係をつくり、子どもがアンケートに本音で答えられるようにしていく必要がある。
学校運営	○学校経営方針	・学校教育目標及び学校経営方針(重点目標)の周知	・教職員、生徒、保護者、地域へ周知徹底を図る。教職員への周知率100%、生徒、保護者への周知率85%を目指す。	・職員会議や各種研修会等で職員に周知徹底する。 ・学校だよりやHP、または、各種の保護者会等の資料等により周知を図る。 ・月1回のPTA役員会で資料等を提供し、啓発する。 ・学校支援連絡協議会で検証していく。	A	・「学校教育目標を知っている」という問いに「あてはまる」「少しあてはまる」と答えた保護者は85%であった。 ・メールやホームページを活用して情報を発信しているが、更なる充実が必要である。	・学校教育目標については、PTA総会や会合、保護会、学校だより、ホームページなどを通じて周知を行う。 ・学校ホームページのタイムリーな更新を心がける。

③生徒会活動の活性化と基本的な生活習慣の確立

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒指導	・生徒会による規範意識の向上	・生徒会本部や生活安全部との連携による校内規律遵守の風土をつくり、まじめに学校生活を送る生徒が報われるようにする。 ・服装、頭髪等の検査で90%以上が第一検査で合格できるようにする。	・生徒指導主事を中心として、生徒会役員が自律的に活動できる環境づくりと働きかけを行う。 ・生徒会役員が本校の課題について積極的に働きかけていることを月1回の生徒会会やタイムリーな放送、たより等で情報発信する。 ・各種取り組み、各行事に生徒の出番を必ず設定し、評価する。	A	・生徒会担当職員の事前の働きかけにより、生徒会本部、各部の取り組みが活性化するとともに、生徒が主体的に活動するようになった。 ・生徒会役員が役員であることを誇りに思い、生徒会活動だけでなく、日常の学校生活においても模範的な行動をとれるようになってきた。 ・服装、頭髪の意図的な違反がなくなってきた。	・服装・頭髪検査は子どもだけでなく、保護者にも事前に予告しておく。できるだけ余裕を持って子どもや保護者が対応できるようにしておく。 ・生徒会活動や学校生活で地道に頑張っている生徒の観察をしっかり行い、学級の中、学年集会、全校集会の中でそのことを取り上げ、頑張っている生徒が報われたり、そのことを知った生徒が自分も頑張ろうと思うような学校づくりをしていく。
学校運営	○開かれた学校づくり	・開かれた学校づくりの推進 ・社会貢献活動の推進	・85%以上の保護者・地域の方々が学校の様々な取り組みを知っている。 ・地域に誇れる特色ある活動を展開する。	・HP、メール配信、各種たよりなど学校からの情報提供を充実させるとともに、地区懇談会や地域の各種会議を活用し、情報提供を行う。 ・伝統行事に参加し、発展させたいという意識を高める。 ・学校支援連絡協議会の活用を図る。	A	・メール配信を中心に全家庭へ、学校支援連絡協議会等を通じて地域や関係機関に、情報を発信することができた。 ・文化発表会を主な場として、神舞太鼓等の地域の伝統行事に参加することができた。 ・学校教育目標および重点目標を、家庭・地域とさらに共有していき、同じ方向性で生徒を育てていくことが必要である。	・ホームページの積極的な更新を行い、携帯端末への情報伝達をさらに進め、その際、学校教育目標および重点目標の周知徹底も図っていく。 ・学校支援連絡協議会を中心に、「働き方改革」を視念に、三者の役割分担の確認と具体的な活動を確認していくべきと考える。
教育活動	●健康・体づくり	・部活動の奨励と推進 ・望ましい生活習慣の形成	・主体的に部活動に参加し、心身の発達を目指す。 ・生徒一人ひとりが体調の自己管理ができるようにする。(睡眠・食事・歯磨き) ・朝食摂取率100%を目指す。	・部活動と学習の関連や体調の管理について、実態に応じた指導を行う。 ・各種アンケートの中で、学習や生活等の調査を定期的に行い、実態に応じた指導や個別指導を行う。 ・学校だより、保健だより等で、健康管理について系統的に保護者に啓発をする。	B	・インフルエンザ予防について、集会や放送・保健便り等で啓発したが12月1月に流行し、自己管理が十分できなかった。 ・昼の歯磨きについては、大多数の生徒が行い、習慣化できている。 ・朝食摂取率は、特定の生徒が食べず91～94%である。	・基本的な生活指導を行うとともに、生徒会活動を通じて活性化させ定着させる。 ・学年PTA等で実態を知らせ、協力を呼びかける。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	●志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあるとする生徒80%以上	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあるとする生徒80%以上	・全ての教科等、学校行事等を通じて、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	A	・「私は、夢や目標の実現に向けて努力している」という設問に対して、よくあてはまる・少しあてはまると答えた生徒が1年生で91%、2年生で92%、3年生で96%と学年が上がるにつれて割合が上昇している。3年間の計画的な進路指導により、将来に向けた意識の高まりを得ることができた。目標値80%以上を大幅に達成できた。	・あまりあてはまらない・あてはまらないと答えた少数の生徒に対して、O-Uテスト等の結果からも抽出をし、個別に教育相談を行う。
学校運営	○業務改善・教職員の働き方改革の推進	・文書処理手順の明確化 ・職員研修の活性化	・アンケートで「文書のデータを校務サーバーに保存・整理することができた」と答える職員を90%以上にする。 ・会議の開始・終了時間を明確化し実践する。	・校務サーバー校務分掌ごとのマニュアルを作成する。 ・会議、研修の開始時間と終了時間の厳守に努め資料の事前配布を確実に実行。 ・定時退勤日の実践	A	・アンケートで「文書のデータを校務サーバーに保存・整理することができた」と答える職員が97%であり、目標を達成できたと思われ。各種会議においては、会議開始時間・終了目標時間の周知をすることにより、目標の時間以内で終わることをおこなって達成できた。	・新教育情報システムの有効利用により、業務改善を図っていく。 ・会議の見直しを持たせるために、終了時間をあらかじめ設定し、効率的な会議の運営を行う。また、会議の精選を図る。 ・年間を通して、メリハリのある働き方改革を推進する。
	○安全管理	・安全教育的の推進 ・危機管理体制の整備	・避難訓練を年間2回実施する(不審者・災害)。 ・防犯・交通安全教室を実施する。 ・危機管理マニュアル、防火・防災計画の作成し、校内・外の安全点検や通学路の安全確認を行う。	・危険箇所の指導の徹底と定期的な登下校指導を実施する。 ・通学路安全マップの再確認を行う。 ・関係機関との連携を図る。 ・定期的な校内外の巡回と安全点検を実施する。	A	・本年度は、不審者対策(1回目)火災時および地震時の訓練を2回実施した。避難については迅速に安全に行うことができた。 ・安全に関しては、ほぼ定期的な安全点検、危険箇所の洗い出しも常に危機意識を持って行うことができた。下校指導では、事故にはならなかったが、危ない場面があった。	・テスト期間中および部活動がないときの下校指導では、前半はトラブルもなく指導できた。後半は、やや混雑したり、ニアミスもあつたりしたので、これからは学年毎の時間差下校指導を行うなどの工夫をする。

4 本年度のまとめ・次年度の取組
本年度も昨年度に引き続き、ほとんどの項目で目標が達成でき、良好な教育活動を展開することができた。本年度は、校内研究を「自他の良さに気づき認めあえる生徒の育成」をテーマに道徳科の授業作りを通して研究をすすめた。心の教育を学校生活の安定や学力向上にも繋げていくことに成果が表れてきていると思われる。来年度に向けては、更なる学級経営・学習指導・教育相談・生徒指導・特別支援教育の充実を図っていく。特に、不登校生徒対策に力を注いでいきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目